

対学小成浪四立市岡夏

去年の十月二十三日に「中越大震災」がお
 きました。午後五時から午後六時ころ、私は
 早夕飯を食べ終わり、テレビを見ながら和ん
 でいて、まさに「平和」な時に突然、「ガタ
 かタガタ」と大きくゆれました。寝ころんで
 いた私は、ゆれで立つことかできません、真横の
 かラス戸が私を殺すのではないかと心の中か
 真、黒になりました。なんとか赤ぢやんのハ
 イハイのように机の下にかくれたものの、家
 がつぶれて、机から出られなくなるのではないな
 いかと不安下い、はい下した。ゆれていた時
 間は長くや、このこと下外に出てみたら、私
 から見える範囲下は、家の屋根かすれ下いた
 くらいで、とりあえずホッ下しました。この
 日は、家に改めて感謝下しました。下も、地震
 は一度下はすまず、何度かありました。夜、
 真、暗な部屋下寝るのは怖か、た下す。「地
 震」の恐ろしさを初めて知りました。
 十月二十四日は、楽しみにしていた文化祭
 の日下した。けれど、学校下の生活はほほ下

きなくなつて、文化祭は延期。その上、
 全校がバラバラのところ、分散授
 業が十二月まで続きました。当時五年生だ。
 た私は市内の小学校へ通いました。その小学
 校では、温かく明るい教室で学習させてもら
 いました。児童会行事の楽しい企画にも参加
 させてもらえました。みなさんは、本当に優
 しく勇気づけてくれました。

私は地震後、「旧山古志村」を訪れました。
 毎年見られるきれいな山は、土の山のように
 なって、十何件の家がつぶれていました。私
 のひいおばあちゃんがいる老人ホームでは、
 水道、ガス、電気が使えなくて、大変な状態
 でした。

私は震災から、「幸せ者だ」と思うよう
 になりました。地震で亡くなつた人もいれは、
 家をなくした人もいます。そんな中、たくさ
 んの人とふれ合ひができる私は、改めて幸せ
 を実感しています。